

ゲリラ豪雨への備えは 初動体制の強化と迅速化を



大村 文俊 議員



Q 東海豪雨や岡崎市でのゲリラ豪雨など想像できないような大雨が降る集中豪雨への対応を伺う。

①東海豪雨で何を学んだか。阿久比川への対応は。②二次災害への対応は。③近年、避難勧告の遅れが、問題になっているが、阿久比町としては、どのようにとらえているのか。



A ①初動体制の強化と迅速化を教訓とした。阿久比川への対応は、河川改修の促進を継続して陳情していく。②周辺環境の汚染防止と迅速な処理対策を考慮し対応する。③避難勧告等の判断・伝達マニュアルにより発令する。内容は広報紙・ホームページで公開中、自助・共助の精神を持って適切な行動をとって頂くことが大切。

防犯リーダーの育成を

調査・研究する



Q 最近、不審者情報が多く聞かれるが、まだまだ不審者への対応に対する認識が不足していると考ええる。以下伺う。

①不審者対策への取り組みは。②各公共施設等での不審者への対応は。③自主防犯力を高め、地域で防犯対策の担い手のなる防犯リーダーの育成をする考えは。



A ①防犯意識と隣近所の結びつきを強くして防犯効果を高めて頂く目的で防犯プレートを各戸に配布した。②施設ごとに対策や対応は異なっているが、不審者対策は重要で難しい問題と考えており、対策の強化を検討する。③自主防犯パトロールを充実していく上で防犯リーダーは大切と考えている。近隣市町の状態を調査・研究する。

地域包括支援センターの活用を

きめ細かく課題に取り組む



Q 高齢者の皆さんが住み慣れた地域で安心して生活が続けられるように支援を目的としている包括支援センターについて伺う。

①包括支援センターの活動と利用状況は。②多くの皆さんに利用してもらうための取り組みは。③高齢者のライフスタイルに合わせた対応の現状と今後の取り組みは。



②各地区への回覧板や町広報紙、町ホームページに掲載をし、啓発活動を実施している。

今後は、地域住民の心身の健康維持や生活の安定、保健・福祉・医療の向上、財産管理、虐待防止などの課題に取り組んでいく。

③総合相談支援事業では、高齢者やその家族の相談に応じ、保健・医療・福祉に関する関係機関と連携し、サービスの利用ができるよう、きめ細かに対応する。高齢者の身近な相談窓口としての、今までの経験や成果を活かし地域包括支援センターの業務に反映させていく。

①	事業名	内容	件数等
	介護予防ケアマネジメント	ケアプラン作成	869件
		特定高齢者	28件
	総合相談支援	個人からの相談	344件
		関係機関からの相談	36件
	権利擁護	虐待相談	6件
		権利擁護相談	6件
	包括的・継続的ケアマネジメント	ケアマネージャーからの相談	15件
		ケース検討会議	延べ90回